

学校  
×  
docomo

## 学習に専念できる環境で、 一人ひとりの能力に合わせた個別学習を実現

### 目的

- 2020年度の大学入試制度改革に向けたICT環境を構築したい
- 生徒個々の能力・課題に沿った学習をさせたい
- 校外外を問わず生徒の勉強スタイルに合わせて利用させたい



### アプローチ

- 校外利用を想定したLTEタブレットの導入
- 教育アプリの見直しによるタブレットの有効活用
- 教育現場にふさわしい「安心・安全」なタブレット環境の構築



### 高山西高等学校

岐阜県高山市下林町353

URL: <http://www.takanishi.ed.jp>



高山西高等学校(岐阜県高山市)は男女共学の私立高校で、「夢かなえる!」をモットーに生徒の自己実現に重きを置いた教育活動を実践している。大学進学や専門学校・就職など、生徒のめざす進路に合わせたコースを設けるとともに、グローバル教育やアクティブ・ラーニングも積極的に取り入れ、これからの社会で必要とされる能力の育成に力を入れる。

## 高大接続改革に向けて、LTEタブレットを導入。

高山西高等学校は高大接続改革にむけて、2017年度より特進Iコースに対して一人1台体制を実施した。同校では生徒一人ひとりが習熟度に合わせて学べるアダプティブ・ラーニングを取り入れ、充実した個別学習の環境を築く。一斉授業ではフォローしきれない、生徒の“苦手”を把握することで質の高い学びをめざす。

### 生徒一人ひとりの習熟度に合わせた学習環境を築く。

同校がタブレット導入を本格実施したのは、2017年度のことである。その理由について副校長の小林隆徳氏は「高大接続改革では英語4技能、CBTの導入、学習ポートフォリオなど、ICTを活用した教育が重要になってきました。そのため本校でもタブレットを導入し、学習ツールとして活用することにしました」と導入背景を語る。具体的にはアダプティブ・ラーニングを重視し、**ICTを活用して生徒一人ひとりの習熟度に合わせた学習環境を築く**。タブレット導入初年度は、特進Iクラスの1年～3年生200名を対象に一人1台体制を実施した。

小林氏はタブレット導入にあたり、LTEモデルとWi-Fiモデルの選択に悩んだという。その結果、最終的にはドコモのLTEモデルを選んだ。小林氏は「本校では夏休みに乗鞍の山岳地で勉強合宿を行っており、ドコモならその場所でも必ずつながると思いました。今後も、**探求学習や学習ポートフォリオの活用など、新しい取り組みを視野に入れており、どんな場所でも確実につながる環境が重要だと考えています**」と語る。



# スピード導入で、アダプティブ・ラーニングの環境を実現

## 短期間での準備でも、安心して進めることができた

一方で、実際のタブレット導入に関しては、準備期間が短く、時間的に余裕がないことが課題であった。2020年度から始まる新大学入試に向けて、早くICTを導入しなければと現場は危機感を持っていたが、ICT検討委員会が立ち上がったのは2016年6月のこと。2017年度の本格実施まで、わずか9ヶ月しかなかった。

これについて小林氏は「準備は短期間でしたが、ドコモの方々に分からないことをフォローしてもらいながら安心して進めることができました。特に、**タブレットを使う際のルール作りに関して相談にのってもらえたことが良かったですね**」と語る。

## 自分のレベルにあった個別学習で、濃密な学習を

そんな高山西高等学校だが、タブレットと同時にアダプティブ・ラーニングのオンライン学習サービスを導入し、習熟度に合わせて個別学習ができる環境を築いた。生徒たちは、放課後の補習時間を利用して、授業で分からなかった部分の動画を見たり、苦手な単元の問題を解いたりしながら自分で学習を進める。

小林氏は「以前から、クラスの中で習熟度に差があることが課題であり、タブレット一人1台の環境を導入するならば、個別学習を充実させたいと考えていました。今は、**生徒が自分のレベルに合った問題をどんどん進めていけるので、濃密な学習ができています**と思います。個別学習の効果も手応えとして感じますね」と語る。生徒たちは補習の時間だけでなく、週末や夏休みなども自宅で利用し、学力向上に活かしているという。



小林隆徳副校長



## 一人ひとりの苦手を克服し、モチベーションの向上に有効

高山西高等学校の教師や生徒たちは、アダプティブ・ラーニングを活用した学習についてどのように感じているだろうか。

高1の生徒は「自分の苦手な単元の動画を理解できるまで、何度も見られるのが良いです。宿題が終わった後に、授業で分からなかったところを見ることもあります」と語ってくれた。**短い時間で効率的に、苦手な部分を克服できるのがメリット**だという。加えて、同生徒は「先生もリアルタイムで自分の進捗状況を把握してくれることが安心感につながっています。タブレットを使うようになってから、リアルな授業では先生に質問したり、友達の見聞を聞くことが大切だということも分かりました」と語る。

また国語科の田辺元教諭は、「自分のレベルに合った問題を解いたり、聞き逃した部分を動画で確認できることで、**生徒たちは“分かる”部分が増え、モチベーションの向上につながっている**と感じます」と手応えを述べた。一方で、生徒の進捗状況が明確に把握できる環境になったことで、「授業で分かったフリをしている生徒も見えるようになりました。個別指導や言葉がけでフォローできればと考えています」と語る。ほかにも、模擬試験の前には、試験範囲の見直しを効率的に行えるため、学習効率の向上にも積極的に活用していきたいという。

2020年度の高大接続改革に向けて、大きな変化の真っ只中にある中。高山西高等学校では、生徒一人ひとりの能力向上を重視し、着実な取り組みへと進化している。



田辺元教諭

お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター(☎0120-808-539)

受付時間 平日午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ドコモのホームページ 法人のお客さま  
教育の場にICTを!

[https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education\\_ict/](https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/)



※本チラシの内容は2018年1月取材時点のものです。